

金沢大学 神経内科

年 報

第 7 号

2006 年 1 月～2006 年 12 月



金沢大学大学院 医学系研究科 脳医科学専攻
脳病態医学講座 脳老化・神経病態学(神経内科学)

<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med19/>

目 次

年報第7号の刊行にあたって	1
[1] 出来事・人事異動	3
[2] 診 療	10
[3] 症例検討会・各種カンファレンス	16
[4] 教育活動	24
[5] 業 績	30
[6] 研究助成	63
[7] 褒 賞	65
[8] 特 許	66
[9] 施設紹介	67
[10] 大学在籍者名簿	71
編集後記	73

年報第7号の刊行にあたって

2006年（平成18年）の教室の記録を年報第7号としてまとめました。

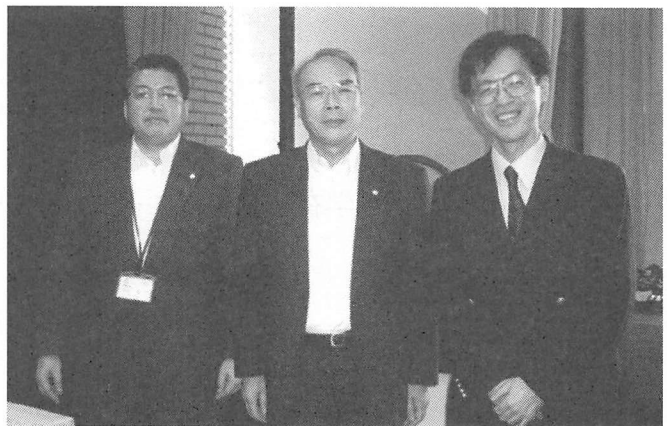
2006年、世界では、イラク戦争開戦後3年が経過しましたが、テロはやむことがなく、治安回復の展望はみえません。日本海をはさんで私達と向き合っている北朝鮮は、弾道ミサイルを日本海に向けて発射し、核実験を行って世界を震撼させました。わが国では、全国各地で“いじめ自殺”が相次ぎ、いじめの多発が大きな問題になりました。

私達が関わる医療、保健面でも、診療報酬改定、腎移植にからむ臓器売買・病気腎移植など、いろいろな話題がありました。新しい医師研修制度の開始後3年が経過し、若手医師の大都会指向（地方離れ）、大学離れの傾向が明確になり、また、医師が自分自身のQOLの比較的よい専門科や職場を選ぶ傾向、とりもなおさず、QOLの悪いと考えられている科や施設における深刻な医師不足が問題になり、しばしばメディアにも取り上げられました。

昨年、高齢化、少子化ともに、わが国が世界一であることが発表されました。国勢調査によると、わが国の65歳以上の高齢者の割合は21.0%、15歳未満の年少者の割合は13.6%であり、高齢化率は世界最高、年少者率は世界最低とのこと。さらに、新たな人口推計によると、少子高齢化が人口減少とともに加速し、約50年後の2055年には、人口8900万人で、65歳以上の高齢者人口は現在の倍の40.5%になると推定されています。先進諸国の中で高齢化の先頭を走っているわが国は、未曾有の超高齢化社会に対応できる新たなシステムを構築していくべき立場にあり、それには、保健、医療、医学などの私達の担当する分野が含まれます。

私達の北陸地域は、わが国の中でも高齢化がとりわけ進んだ地域です。2001年の金沢大学医学部の大学院重点化のキーワードは『老化（高齢化社会）』であり、『脳医科学系』は『脳老化の解明とその防止』を大目標として掲げ、私達の神経内科はneurologyに加えbrain agingにもフィールドを拡げ、以来、『脳老化・神経病態学分野』として活動を続けてきました。私達の目標である『脳老化関連疾患の制御法開発』はニーズがいよいよ高まり、社会から大きな貢献を求められているものと強く感じております。

本年報をみながら、2006年の私達の教室の診療、教育、研究の状況を振り返ってみますと、教室の活動は、教官、医員、大学院生、臨床心理士、検査技師、保健師、事務職員の方々、院内や学内の方々、学外の共同研究者の方々、診療や学生教育を助けてくださった関連病院の方々、当科研究室に他から研究にきてくださっている大学院生など、多くの方々のご協力によって支えられており、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



『なかじまプロジェクト』に関する合意締結（2006年8月、七尾市役所）。向かって左から、田中・健康福祉部長、武元・市長、山田。

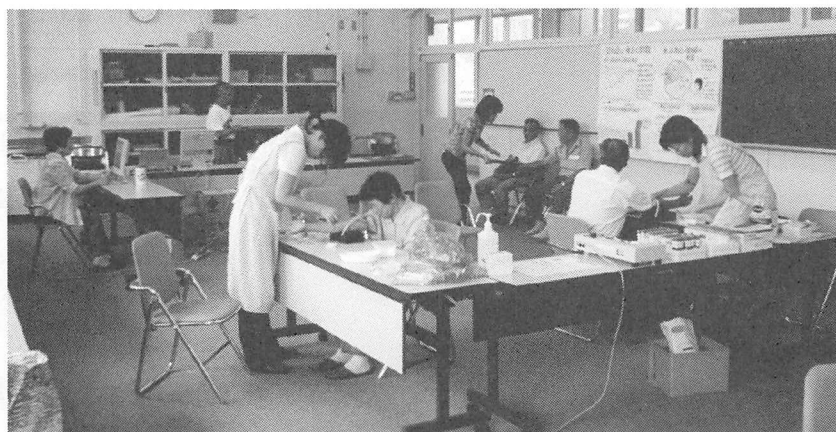
私達の教室の2006年のトピックスの一つは、当地域の高齢化モデル地区（石川県七尾市中島町）を対象に、認知症等の脳老化関連疾患の早期発見や予防を目的とする脳健診プロジェクト（『なかじまプロジェクト』）がスタートしたことです。これは、神経内科医、保健師、臨床心理師、看護師等からなるチームが、地域の高齢者の脳の健診を行い、その中で有用な検査技術等を開発し、さらにはアルツハイマー病等に対する予防的介入を行うプロジェクトです（写真）。このプロジェクトは、文部科学省・知的クラスター創成事業の助成を受け、地元自治体、医師会、医療機関等のご支援をいただき、検査等の技術開発を行う当地域の先端的な研究グループ（北陸先端大、金沢工大等）と共同研究体制を組み、数年の準備や啓蒙期間を経て開始できたもので、関係各位に厚く御礼申し上げます。この中島町は、仲代達矢さんが主宰する無名塾の活動拠点となっている町であり、2007年3月には、その中心となっている能登演劇堂で、認知症の早期発見や予防をテーマに、地元の演劇集団による創作劇や講演会を計画しており、どのような催しになるか、大変楽しみにしています。

この『なかじまプロジェクト』の以前から、私達は石川県羽咋（はくい）市で地域住民を対象にPETによる脳研究プロジェクトを行っております（先端医学薬学研究センターとの共同研究）。従いまして、当地域では、『なかじまプロジェクト』と『はくいPETプロジェクト』の2つの地域基盤型プロジェクトが進行していることになります。これらのプロジェクトを一層充実させるためには、保健、医療、医学、検査計測系技術はもちろん、心理、リハビリ、栄養等の幅広い関連領域からのアプローチが必要であり、関心のある方々の御参加を歓迎いたします。

私達は神経疾患の予防や治療を通じて、社会に貢献し患者さんの幸福の一助となることのできる神経内科をめざし、一層努力していきたいと思います。この年報第7号を皆様方に御高覧いただき、一層の御指導を賜わりますことができましたら誠に幸いに存じます。

平成19（2007）年3月

山 田 正 仁



七尾市中島の鉾打公民館における『なかじまプロジェクト』脳健診（2006年8月）。写真の手前の方では看護師による採血が、奥の方ではタッチパネルを用いた認知機能テストが行われている。その他に、脳健診の説明（医師）、ライフスタイルなどの調査（保健師）、神経心理テスト（臨床心理士）、神経内科医によるチェック等のブースが設置されている。

[1] 出来事・人事異動

(1) 2006 年医局の出来事

2006 年 1 月 28-29 日

医局旅行（八方尾根スキー場）



2006 年 3 月 14 日

医局送別会（とどろき亭、金沢）



2006 年 3 月 21 日

日本神経学会市民公開講座 in 金沢
(文教会館、金沢)



映画「折り梅」監督 松井久子氏による講演



2006 年 4 月 18 日

新人歓迎会 (12 の月、金沢)



2006 年 5 月 11 日

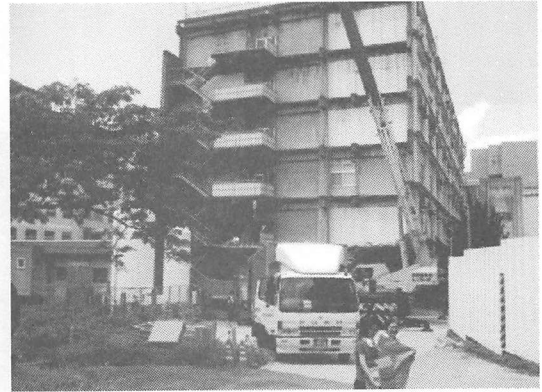
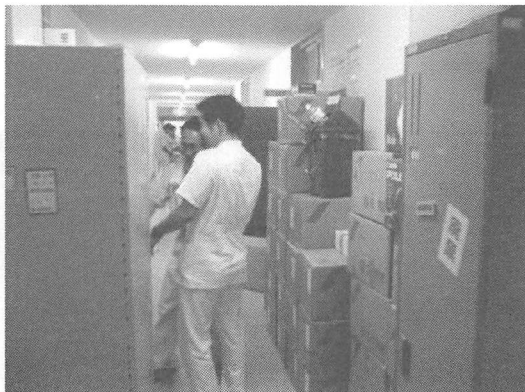
金沢大学神経内科同門会 (東京)

2006 年 7 月 21-22 日

第 2 回金沢神経内科アカデミー

2006 年 7 月 30-31 日

医局引っ越し (第 2 中央診療棟から医学部 A 棟へ)



2006 年 10 月 20 日

第 10 回ニューロサイエンスセミナー (金沢大学)

米国 Utah 大学 Robert Fujianmi 教授歓迎会



2005 年 11 月 16 日

第 11 回ニューロサイエンスセミナー (金沢大学)

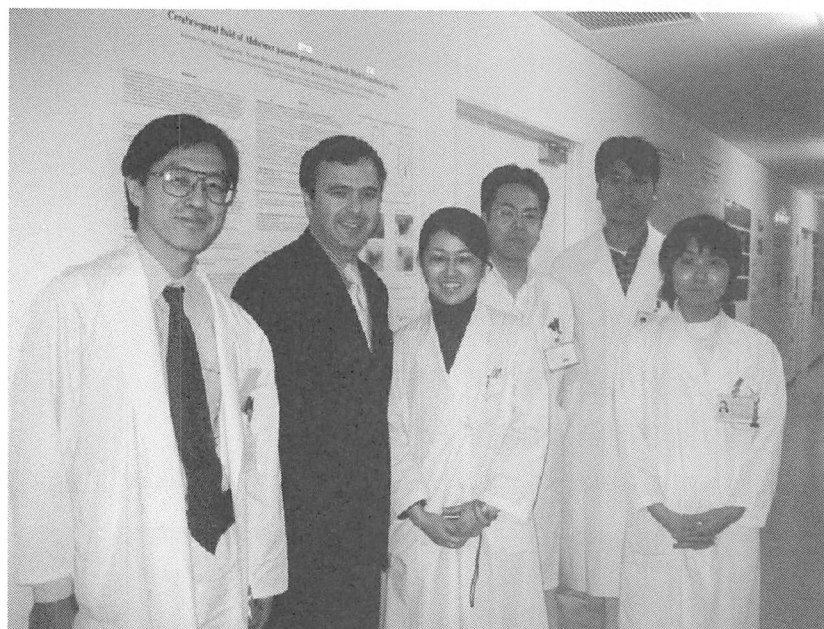
京都大学大学院生命科学研究科・

高次生体統御学分野教授 垣塚彰先生

2006 年 11 月 24 日

第 12 回ニューロサイエンスセミナー（金沢大学）

米国 Johns Hopkins 大学 Majid Fotuhi 先生歓迎会



2006 年 12 月 9 日

金沢大学神経内科同門会・学術集会 / 総会

2006 年 12 月 26 日

医局忘年会（鴻華樓、金沢）

(2) 大学人事異動

2006 年 4 月

<転入>

池田 篤平：国立病院機構金沢医療センターから大学院へ

池田 芳久：福井県立病院から大学院へ

能登 大亮：富山市民病院から大学院へ

蔵谷 久美：事務員として採用

小瀬 健治：大学院修士課程入学

木下 浩美：クラスター事業研究員として大学に配属

<転出・異動>

駒井 清暢：大学より国立病院機構医王病院特命副院長へ

品川真里子：厚生連高岡病院より金沢西病院へ

沖野 惣一：国立病院機構医王病院より石川県立中央病院へ

坂尻 顕一：石川県立中央病院より国立病院機構金沢医療センターへ

小竹 泰子：国立病院機構医王病院より市立砺波総合病院へ

白崎 弘恵：市立砺波総合病院より厚生連高岡病院へ

浜口 毅：国立病院機構医王病院より石川県立中央病院へ

廣畑 美枝：福井大学より国立病院機構医王病院へ

古川 裕：大学より福井県立病院へ

坂井 健二：国立病院機構犀潟病院から石川県立中央病院へ

柴田 歩：大学より国立病院機構医王病院へ

室石 豊輝：新規入局 富山市民病院へ

<医局内異動>

岩佐 和夫：講師から助教授へ

石田 千穂：助手から講師へ

高橋 和也：医員から助手へ

(3) 2006 年 金沢大学神経内科同門会学術集会／総会

日 時 12 月 9 日 (土)

場 所 金沢都ホテル

学術集会

I 一般演題 座長 新田永俊先生

1) 脳梗塞における t-PA 使用に関する検討会

a) 石川県立中央病院

坂井健二先生

b) 浅の川総合病院

松本泰子先生

c) 国立病院機構金沢医療センター

坂尻顕一先生

d) 厚生連上越総合病院

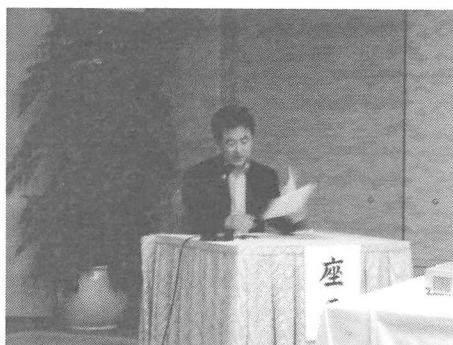
福原信義先生



II 特別講演 座長 坂下泰雄先生

1) 地域における神経内科医の果たす役割

黒部市民病院神経内科部長 新井裕一先生



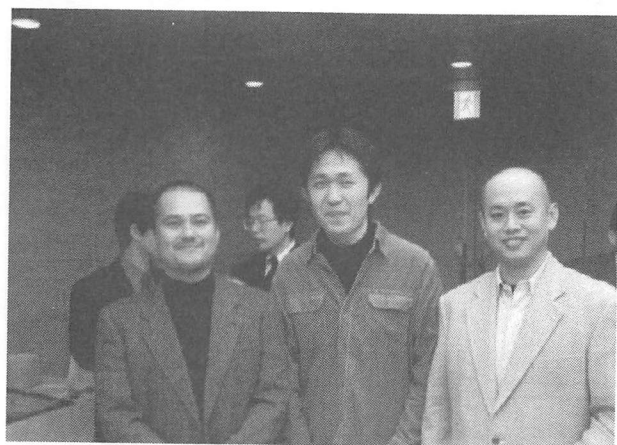
III 大学院修了報告会 座長 小野賢二郎先生

1) 「 β アミロイド蛋白沈着症の基礎研究と疫学調査」

国立病院機構医王病院

廣畑美枝先生

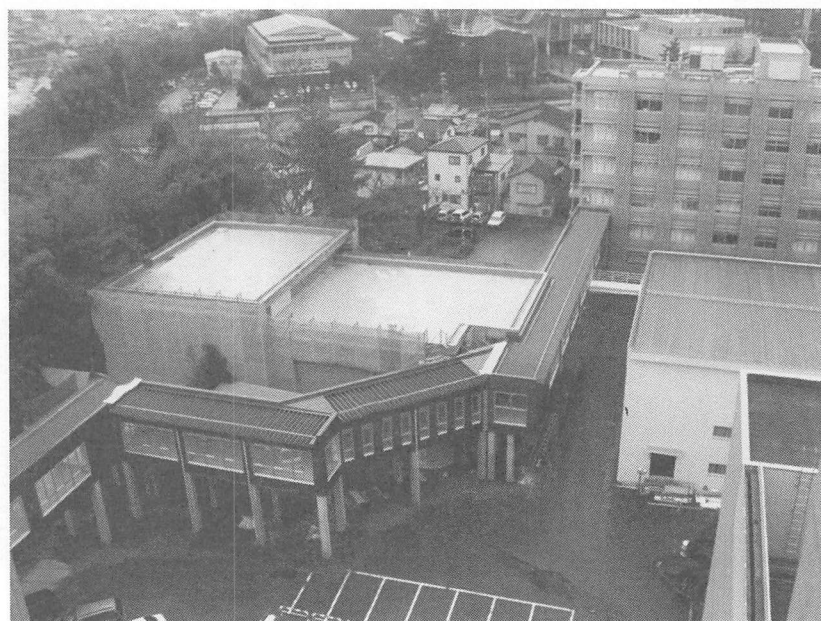




金沢大学神経内科同門会集合写真



＜ 2006 年医局集合写真＞



＜新医局（右上）と病院との間にできた渡り廊下＞

〔2〕 診 療

（１） 外来実績

今年度も昨年度と同様、神経内科の外来診療は、初診医と再診医を別々に配置して行いました。表1に本年の外来患者数を表にしてみました。医事課集計の初診患者には、院内より紹介された外来・入院患者の神経内科初診は含まれていません。表1に示されているように患者総数は昨年とほぼ変わりませんが、院内紹介が増加したことが分かります。これは、高齢化社会を迎え、脳神経疾患が広く認知されるようになり、特に当院他科における神経内科の専門的診察の必要性が高まっていることが反映されているといえます。しかし、数少ないスタッフだけでは、毎日受け付けている外来診療やもの忘れ外来をカバーするのはますます困難になってきています。スタッフの先生方はもちろんですが、それ以外の診療応援にきていただいた先生方、松本先生、山川先生、廣畑先生、そして大学院の先生方の力なくしては1年間やりとげることは不可能でした。また、多忙、多種にわたる外来業務をすすめるにあたり、受付を担当していただいた蔵谷さん、山岸さん、中田さん、米原さんにも大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

（２） 電子カルテ

昨年度より当院に導入された電子カルテですが、今年度からさらに院内紹介も端末入力となりました。導入から1年が経過して外来の先生方のスピードも格段にアップしてきましたが、予期せぬトラブルも多く、これが診療効率に大きく影響を与えていたことも事実です。電算室の方々も献身的にご協力していただきましたが、カルテは医療従事者、患者双方にとって何よりも大事な証拠であり、電子カルテの運営に関しては更なる工夫が望まれます。

(外来医長 小野 賢二郎)

月	医 事 課 集 計			神 経 内 科 集 計			
	患者数合計 (人)	再診	初診	初 診			
		患者数 (人)	患者数 (人)	初診患者数 (人)	院内紹介 (人)	院外紹介 (人)	紹介状なし (人)
1	693	653	40	99	53	16	30
2	719	678	41	92	43	21	28
3	907	857	50	128	56	27	45
4	724	690	34	90	53	17	20
5	739	690	49	122	68	24	30
6	804	748	56	122	59	30	33
7	789	749	40	95	54	19	22
8	716	668	48	110	60	26	24
9	699	657	42	104	57	20	27
10	658	626	32	75	35	18	22
11	689	646	43	84	46	21	17
12	661	626	35	95	63	13	19
合 計 (前年比%)	8798 (93)	8288 (93)	510 (86)	1216 (102)	647 (113)	252 (84)	317 (101)

表 1 外来患者数

2006 年度外来担当医

4～5 月

曜 日	月	火	水	木	金
初 診	岩佐 高橋	篠原 町谷	小野 松本	石田 山川	森永 本崎
再 診	山田＊ 石田		吉川＊ 高橋	山田＊ 岩佐 小野	
ものわすれ外来（初診） （午後）				山田 小野	

6月～

曜 日	月	火	水	木	金
初 診	岩佐 高橋	当番医 **	小野 松本	石田 山川	廣畑 当番医 **
再 診	山田* 石田		吉川* 高橋	山田* 岩佐 小野	
ものわすれ外来（初診） （午後）				山田 小野	

*紹介患者初診

** 篠原，森永，町谷，本崎

(2) 病棟

病棟

本年度は神経内科20床のうち16床を予定入院、4床を緊急入院用に分けました。退院患者数は167症例と前年に比べ約20例減となりました。しかし病棟医が4名と昨年に比べさらに1名減となったこと、通常人員の移動は4月なのでそれを考慮すると、2004年度204例（病棟医7名）、2005年度168症例（病棟医5.5名）となり本年度の年間190例ペースは驚異的ともいえると思います。さらに新規遺伝子異常を2例でつきとめるなど大学病院としての質も保たれていたと考えます。その一方相変わらず緊急入院を金沢医療センターや県立中央病院など関連病院の先生方に引き受けていただくという悪習慣は断ち切れませんでした。それでも昨年に比べTIAやてんかん症例が増えていることは緊急の症例が増加したことを語っていると思います。2007年4月からは神経内科病棟が東2階に移動します。2階には精神科や脳神経外科が入っており神経関連各科との連携が容易になるのではと期待しています。また神経内科が東2階の主要科となるため看護師さんとの連携も上手につくっていただけるのではと期待しています。今後パス入院の導入などがすすむと病床稼働率、平均在院日数などにも貢献できるのではと思っています。貴重な症例を紹介してくださったり無理な転院を引き受けてくださったりと関連病院の先生方にはこの場を借りてもう一度御礼申し上げます。

(病棟医長 高橋 和也)

<疾患内訳>

血管障害：16例

脳梗塞	11例
一過性脳虚血発作	5例

感染症・炎症性疾患：13例

ヘルペス脳炎	2例
肥厚性硬膜炎	6例
脊髄炎	1例
破傷風	1例
クロイツフェルトヤコブ病	2例

変性疾患：41例

運動ニューロン病	16例
球脊髄性筋萎縮症	1例

パーキンソン病	1 例
進行性核上性麻痺	9 例
脊髄小脳変性症	7 例
遺伝性痙性対麻痺	2 例
ハンチントン舞踏病	2 例
前頭側頭葉型認知症	2 例
アルツハイマー型認知症	1 例

筋・筋接合部疾患：1 5 例

筋ジストロフィー	1 例
多発筋炎	1 例
皮膚筋炎	1 例
重症筋無力症	1 0 例
ランバート・イートン症候群	1 例
その他の筋疾患	1 例

末梢神経障害：2 4 例

ギランバレー症候群	2 例
フィッシャー症候群	1 例
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	5 例
血管炎性ニューロパチー	1 例
脳神経麻痺	5 例
その他の末梢神経障害	1 0 例

脱髄性疾患：8 例

多発性硬化症	8 例
--------	-----

てんかん：4 例

内科・全身性疾患に伴う神経筋疾患：2 0 例

悪性リンパ腫	2 例
シェーグレン症候群	7 例
サルコイドーシス	4 例
アミロイドーシス	1 例

糖尿病	1 例
POEMS 症候群	2 例
シトルリン血症	1 例
モルバン症候群	1 例
甲状腺機能亢進症	1 例

その他：2 6 例

脊髄動静脈婁	1 例
神経腫瘍	1 例
正常圧水頭症	2 例
脳腫瘍	2 例
脳症（原因不明）	6 例
肺動静脈婁	1 例
MRI 異常	2 例
脊椎炎	1 例
肺炎	2 例
片側顔面痙攣	1 例
腰椎症	4 例
脊髄腫瘍	1 例
精神疾患	2 例

[3] 症例検討会・各種カンファレンス

(1) 2006 年症例検討会

日付	年齢	性別	題名	疾患名(疑い例を含む)	主治医
1.10	49	M	片側振戦が目立った PSP の 1 例	Progressive supranuclear palsy	柴田、石田
1.17	50	F	抗 VGKC 抗体陽性浸潤型胸腺腫の 1 例	Morvan syndrome	町谷、岩佐
1.24	68	M	RA で長期ステロイド服用中破壊性脊椎炎を呈した 1 例	Vertebral osteomyelitis	島、高橋
2. 7	59	M	C 型肝硬変に対する IFN 治療中に polyradiculo neuropathy を来した症例	IFN induced radiculoneuropathy	川田、加藤 駒井
2.14	48	M	血漿 VEGF 高値を呈した Sensory neuropathy の 1 例	Polyneuropathy	町谷、岩佐
2.21	55	M	脳幹脳症の 1 例	Multiple sclerosis	森永、小野
2.28	55	M	家族歴があり失調を呈した 1 例	Spinocerebellar degeneration	平山、島 高橋
3. 7	76	F	原因不明の脳症の 1 例	Encephalopathy	柴田、石田
3.14	44	M	緩徐進行性に錐体路障害のみを呈し、MRI で左右対称性の病変を認めた 1 例	Brain tumor	加藤、駒井
4. 4	78	M	下位運動神経障害と軽度の感覚神経障害を呈した 1 例	Motor neuron disease	森永、柴田 石田
4.11	58	M	発症時に好酸球増多を認め時間的空間的多発を認めた 1 例	Multiple sclerosis	池田芳、町谷 石田、岩佐
4.18	68	F	細菌性髄膜炎後遷延性意識障害を呈した 1 例	Bacterial meningitis	島、岩佐
4.26	81	M	ANCA 陽性多発神経炎の加療中に意識障害を呈した 1 例	Steroid psychosis	池田篤、高橋
5. 2	48	F	ビタミン E 欠乏の 1 例	Ataxia with isolated Vit.E deficiency	島、岩佐
5. 9	44	F	ステロイド抵抗性の皮膚筋炎の 1 例	Dermatomyositis with malignant lymphoma	能登、小野
5.16	22	F	Nonsystematic vasculitic neuropathy と考えられた 1 例	Nonsystematic vasculitic neuropathy	池田芳、石田
5.22	64	F	透析患者に出現した失調および認知症	Central pontine myelinolysis	池田篤、高橋
5.30	78	M	持続的に炎症反応を伴う Motor neuron disease が疑われる 1 例	Motor neuron disease	島、岩佐
	68	M	原因不明の意識障害	Encephalopathy	松任病院 (能登)
6. 6	24	M	痙性を伴う遺伝性 polyneuropathy の 1 例	HMSN type V	能登、小野

6.13	57	F	Silent subcortical infarction の 1 例	Cerebral infarction	池田芳、石田
6.20	69	M	当院で IvIg を施行した ALS	Motor neuron disease	池田篤、高橋
6.27	57	F	Silent subcortical infarction の 1 例-part2-	Cerebral infarction	池田芳、石田
7. 4	58	M	ヘルペス脳炎が遷延した 1 例	Herpes encephalitis	島、岩佐
7.11	44	F	治療経過中に重症化した皮膚筋炎の 1 例	Dermatomyositis with malignant lymphoma	能登、小野
7.18	47	M	Distal Hereditary Motor Neuropathy が疑われた 1 例	Distal hereditary motor neuropathy	池田芳、石田
9. 5	48	F	新しい変異を認めた Vit.E 欠乏症の 1 例	Ataxia with isolated Vit.E deficiency	島、岩佐
	29	M	Desmoplastic rund cell tumor の 1 例	Desmoplastic rund cell tumor	島、岩佐
9.12	66	M	脳質拡大を伴った認知症の 1 例	Alzheimer	能登、小野
9.19	56	F	人工関節感染に伴うコバルト中毒による sensory neuropathy と考えられた 1 例	Cobalt toxicity	池田篤、高橋
9.26	36	M	シトルリン血症の 1 例	Type I Citrullinemia	池田芳、石田
10. 3	72	M	両側副腎腫瘍を伴う脊髄腫瘍疑いの 1 例	Malignant lymphoma	島、岩佐
10.10	20	M	片側錐体路変性を認めた 1 例	Germinoma	能登、高橋
10.17	35	M	痙性対麻痺を伴う遺伝性白質脳症の 1 例	Hereditary spastic papaparesis	池田芳、石田
10.24	64	M	神経浸潤を認めた DLBCL 再発の 1 例	Malignant lymphoma	高瀬、島、石田
10.30	59	F	Churg-Strauss syndrome の 1 例	Churg-Strauss syndrome	池田篤、小野
11. 7	80	M	濃厚な家族歴があり遺伝性と考えられた舞踏運動の 1 例	Huntington disease	能登、高橋
11.14	79	M	認知症を伴い、亜急性に高度に進行した感覚性失調症の 1 例	Beriberi	池田芳、岩佐
11.21	58	M	自律神経障害を認めた 1 例	Shy-Drager syndrome	池田篤、小野
11.28	49	F	脊髄病変を伴った NK/T cell lymphoma の 1 例	Myelitis	島、石田
12. 5	52	M	急激に発症しその後進行が停止した運動ニューロン病疑いの 1 例	Motor neuron disease	能登、高橋
12.12	50	M	Pathy な分布を示した運動優位 neuropathy の 1 例	motor dominant neuropathy	池田芳、岩佐
12.19	65	M	家族性アミロイドポリニューロパチーの 1 例	Familial amyloid poryneuropathy	島、石田

(2) CPC／死亡症例検討会

日付	症例	臨床診断	臨床担当	病理診断	病理担当
6月27日	81M	ALS	島 啓介	ALS	分子細胞病理学 (旧第1病理)
11月14日	39M	dCJD	佐村木美晴 (医王病院)	dCJD	佐村木美晴 (医王病院)
12月12日	77M	MOF, 意識障害	島 啓介	MOF	分子細胞病理学 (旧第1病理)

(3) 生 検

2006 年疾患内訳（臨床診断（疑い病名を含む））

筋	炎症性ミオパチー（多発筋炎・皮膚筋炎・ウイルス性筋炎含む）	18
	筋ジストロフィー（ベッカー型・肢帯型含む）	4
	サルコイドーシス	2
	多発ニューロパチー（感覚性ニューロパチー含む）	5
	血管炎性ニューロパチー（Churg-Strauss syndrome 含む）	2
	先天性ミオパチー	1
	遠位型ミオパチー	1
	家族型ミオパチー	1
	脊椎強直症候群	1
	筋萎縮性側索硬化症	1
	非ホジキンリンパ腫	1
	家族性アミロイドポリニューロパチー	1
	神経周膜炎	1
計 39 例		
神 経	多発ニューロパチー（感覚性ニューロパチー含む）	5
	神経周膜炎	1
	血管炎性ニューロパチー（Churg-Strauss syndrome 含む）	2
	筋萎縮性側索硬化症	1
	血管炎	1
	非ホジキンリンパ腫	1
	家族性アミロイドポリニューロパチー	1
	計 12 例	
皮 膚	多発ニューロパチー	1
	家族性アミロイドポリニューロパチー	1
計 2 例		
血 管	血管炎性ニューロパチー	1
計 1 例		

生検所属内訳

	検体数
金沢大学附属病院 神経内科	21
金沢大学附属病院 他科	2
石川県立中央病院 神経内科	7
浅ノ川総合病院 神経内科	6
福井県立病院 神経内科	4
能登総合病院 神経内科	3
金沢医療センター 神経内科	2
金沢医療センター 内科	1
富山市民病院 神経内科	2
小松市民病院 神経内科	1
市立砺波総合病院 神経内科	1
福井県済生会病院 神経内科	1
金沢済生会病院 神経内科	1
金沢社会保険病院 内科	1
石川松任中央病院 内科	1
計	54

(4) 生検カンファレンス

年月日	診 断	所 属	担 当 医
1 月 10 日	多発筋炎	公立松任 腎高血圧内科	駒井、高枝
1 月 17 日	皮膚筋炎	福井県済生会	山村、岩佐
1 月 31 日	motor sensory polyradiculoneuropathy	当科	川田、加登、駒井
2 月 14 日	先天性ミオパチー	富山市民	能登、林
2 月 21 日	筋炎	小松市民	佐竹
	サルコイドーシス	当科	加藤、駒井
3 月 14 日	皮膚筋炎	当科	森永、小野
3 月 28 日	筋サルコイドーシス	当科	島、高橋
4 月 4 日	皮膚筋炎	福井県立	濱田
	多発筋炎／皮膚筋炎	砺波総合	白崎
	多発筋炎	金沢医療センター	新田
	遠位型ミオパチー	富山市民	林
4 月 11 日	多発ニューロパチー	公立能登総合	柳瀬、石田
	多発筋炎	福井県済生会	山村
4 月 17 日	神経周膜炎	浅ノ川	松本
5 月 16 日	皮膚筋炎	当院 リウマチ内科 2	井上、岩佐
5 月 30 日	家族性ミオパチー	福井県立	宮地
6 月 6 日	筋萎縮性側索硬化症	当科	島、岩佐
6 月 13 日	多発筋炎	当科	能登、小野
6 月 21 日	血管炎性ニューロパチー、SLE	石川県立中央	坂井
7 月 11 日	LGMD 2 型	石川県立中央	坂井
	筋ジストロフィー	石川県立中央	小嶋、坂井
7 月 25 日	皮膚筋炎	石川県立中央	沖野
9 月 12 日	血管炎性ニューロパチー	公立松任	高枝、能登
	筋ジストロフィー	当科	能登、小野
	筋炎	済生会金沢	藤井
9 月 19 日	ミオパチー	当科	池田篤、高橋
	筋ジストロフィー	福井県立	古川、伊藤、宮地
10 月 5 日	多発ニューロパチー	当科	池田篤
10 月 24 日	ウイルス性筋炎	金沢医療センター	坂尻
	ミトコンドリアミオパチー	金沢医療センター 内科	高桜、坂尻

	非ホジキンリンパ腫	当科	島、石田
10月31日	急性感覚性ニューロパチー	浅ノ川	松本
	多発筋炎	当科	池田芳、岩佐
11月14日	ビタミンB1・B12欠乏症（亜急性感覚失調）	当科	池田芳、岩佐
	多発筋炎	金沢社会保険 内科	渡辺、篠原
	ミオパチー	石川県立中央	坂井
11月21日	Churg-Strauss-Syndrome	当科	池田篤、小野
12月5日	FAP	当科	島、石田
	SLE, 筋炎	当院 皮膚科	加治、石垣
12月12日	Small fiber neuropathy	浅ノ川	松本
12月26日	ミオパチー	福井県立	古川、宮地、長谷川

（５）臨床神経セミナー

月1回月曜午後5時30分から神経内科、脳神経外科、神経精神科の3科合同で、各科が症例を持ち寄ってカンファレンスを行っています。2006年に神経内科から提示した症例を表に示します。

年月日	症例	タイトル	主治医
1月30日	50F	抗VGKC抗体陽性浸潤型胸腺腫の1例	町谷、岩佐
2月20日	56F	TIAを呈したRendu-Osler-Weber病の1例	柴田、石田
3月13日	44M	両側錐体路徴候のみを呈し、脳幹に対称性病変を認めた1例	加藤、駒井
4月17日	75F	発作性の意識障害とふらつきを繰り返した1例	池田篤、高橋
5月15日	68F	細菌性髄膜炎後遷延性意識障害を呈した1例	島、岩佐
6月19日	57F	Silent cortical infarctionの1例	池田芳、石田
7月10日	58M	遷延性ヘルペス脳炎の1例	島、岩佐
9月11日	65M	進行性の言語性短期記憶障害・換語障害を呈した1例	池田芳、石田
10月23日	66M	脳室拡大を伴った認知症の1例	能登、小野
11月20日	77F	脊髄AVFの1例	島、岩佐
12月18日	79M	認知症を伴い、亜急性に高度に進行した感覚性失調症の1例	池田芳、岩佐

(6) もの忘れ外来検討会

毎月1回もの忘れ外来を受診した症例について、医局員、心理士、リハビリの方々が集まって検討会を開いている。ここでは、初診もしくは経過観察中の症例の検討、もの忘れ外来における問題などに関して討論している。

日 付	検 討 症 例 数
2006 年 1 月 27 日	8 例
2 月 17 日	6 例
3 月 24 日	10 例
5 月 19 日	6 例
6 月 23 日	6 例
7 月 8 日	6 例
8 月 18 日	2 例
9 月 29 日	8 例
10 月 25 日	2 例
11 月 29 日	9 例
12 月 15 日	5 例

(7) ニューロサイエンスセミナー

●第10回ニューロサイエンスセミナー：平成18年10月20日（金）

Robert S.Fujinami: Professor, Department of Neurology University of Utah School of Medicine

“The Neuroimmunology of Inflammatory Demyelinating Disease.”

●第11回ニューロサイエンスセミナー：平成18年11月21日（木）

垣塚 彰：京都大学大学院生命科学研究科・高次生体統御学分野教授

“神経変性疾患における VCP 蛋白質の役割”

●第12回ニューロサイエンスセミナー：平成18年11月24日（金）

Majid Fotuhi: Director, Memory Disorders Unit, Division of Neurology, Sinai Hospital of Baltimore and Assistant Professor of Neurology, Johns Hopkins University School of Medicine

“Opportunities for Preventing Memory Loss and Dementia.”

[4] 教育活動

(1) 神経系疾患系統講義

● 2006 年度 対象：医学部医学科 4 年生

日 付	タイトル	講義担当者
4 月 14 日	総 論 Neurology 入門 (1) : Neurology とは ?	山田正仁
4 月 21 日	Neurology 入門 (2) : 診断学入門	山田正仁
4 月 28 日	神経内科の検査 (1) : 病理学的検査ほか	石田千穂
5 月 26 日	神経内科の検査 (2) : 生理学的検査, 髄液検査ほか	岩佐和夫
5 月 26 日	各 論 神経変性疾患 (1) : 錐体外路系疾患, 痴呆性疾患	山田正仁
5 月 19 日	神経変性疾患 (2) : 運動ニューロン疾患, 脊髄小脳変性症	駒井清暢
6 月 2 日	意識障害の診断	駒井清暢
7 月 7 日	神経系感染症, 脱髄性疾患	高橋和也
9 月 1 日	脳血管障害の診断と治療	石田千穂
9 月 8 日	神経系の代謝性・中毒性疾患・全身性疾患に伴う神経障害	岩佐和夫
9 月 15 日	末梢神経・自律神経系疾患	岩佐和夫
9 月 22 日	神経筋接合部疾患および筋疾患	吉川弘明
10 月 5 日	神経内科疾患とめまい	小野賢二郎
10 月 13 日	神経系の発作性・機能的疾患	小野賢二郎
11 月 17 日	特別講義 神経変性疾患に共通する発症機構の解明を目指して	垣塚 彰 *
12 月 1 日	重症筋無力症	高守正治

* 京都大学教授

(2) 診断学実習

(医学部 4 年生対象)

1 グループあたり計 20 回の診断学実習が行われました。神経内科のうち 4 回の神経診断学を担当しました。

● 2006 年春・秋学期

学生総数 99 名, 総授業数 20 回

担当：岩佐 和夫、石田 千穂、高橋 和也

(3) 臨床講義

● 2006 年 対象：医学部医学科 4 年生

日 付	症例	タ イ ト ル	疾 患 名	担 当
(2005 年 11 月から計 10 回)				
1 月 6 日	40F	多彩な神経症状を示す 40 歳女性	多発性硬化症	駒井清暢
1 月 13 日	69F	下肢の痛みとしびれを訴える 69 歳女性	POEMS 症候群	山田正仁
1 月 20 日	64M	15 年前から手のふるえを訴える 64 歳男性	パーキンソン病	山田正仁
1 月 27 日	61M	歩行時のふらつきと頻尿を訴える 61 歳男性	多系統萎縮症	山田正仁
2 月 3 日	70F	徐々に進行する筋力低下を訴える 70 歳女性	筋萎縮性側索硬化症	山田正仁
2 月 10 日	73F	左半身に熱感を示す 73 歳女性	サルコイドミエロパチー	駒井清暢
2 月 22 日	28M	四肢の筋力低下と感覚障害を繰り返す 28 歳男性	CIDP	山田正仁
3 月 3 日	54M	痴呆と進行する四肢の筋力低下を示す 54 歳男性	認知症を伴う ALS	石田千穂
(2007 年 3 月まで計 9 回)				
11 月 10 日	80M	不随意運動を示す 80 歳男性	ハンチントン病	岩佐和夫
11 月 24 日	66M	糖尿病を基礎疾患に持つ左半身脱力を示す 66 歳男性	脳梗塞	山田正仁

(4) 臨床実習 (BSL)

開始日	終了日	グループ数	学生総数
2005 年度冬学期			
1 月 10 日	3 月 22 日	5	31
2006 年度春学期			
4 月 10 日	7 月 14 日	6	35
2006 年度秋学期			
10 月 16 日	12 月 5 日	5	30

BSL スケジュール（月曜スタート）

曜日	午前	午後
月	9:00 ガイダンス	
火	8:00 病棟教授回診	講義, 18:00 医局 CC
水	8:00 診療グループ回診, 外来ポリクリ（岩佐）	
木	8:00 診療グループ回診, 外来ポリクリ（山田）	
金	8:00 診療グループ回診, 10:00 医王病院見学	
月	金沢医療センター見学	金沢医療センター見学
火	8:00 病棟教授回診	学生 CC, 教授面接, 18:00 医局 CC

BSL スケジュール（木曜スタート）

曜日	午前	午後
木	9:00 ガイダンス	
金	8:00 診療グループ回診, 10:00 医王病院見学	
月	金沢医療センター見学	金沢医療センター見学
火	8:00 病棟教授回診	講義, 18:00 医局 CC
水	8:00 診療グループ回診, 外来ポリクリ（岩佐）	
木	8:00 診療グループ回診, 外来ポリクリ（山田）	
金	8:00 診療グループ回診, 9:30 学生 CC	教授面接

4年生の診断学実習では、4回の実習のうち最終日には OSCE（Objective Structured Clinical Examination；客観的臨床能力試験）形式のテストを以前から継続しています。

神経内科の臨床講義プラカン（4年生）では、学生にプリント作成から担当してもらうという方式を継続しており、年々、学生の神経内科の内容に対する理解が深まってきました。

臨床実習（BSL）は、4月から、グループ毎に担当教官を決め、同一教官が講義も学生 CC も行うという体制にしました。なるべく BSL 学生との接触を深め、神経内科をよりよく理解してもらいたい、という観点からです。この効果については、まだ明らかではありませんが、しばらく継続していく予定です。その他、スケジュールに関しては、医王病院見学日を火曜日から金曜日に変更しました。これまで火曜日の密なスケジュールの合間に医王病院へ往復するのは学生にとってはかなり負担だったのですが、それが緩和されたものと思います。

学外実習にご協力いただきました、駒井先生、新田先生、沖野先生にはこの場を借りて
深謝申し上げます。実際に病棟主治医として学生指導にあたった本崎先生、柴田先生、町
谷先生、森永先生、島先生、池田（篤）先生、池田（芳）先生、能登先生、本当に忙しい
中をありがとうございました。

（6）大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）講義

- 山田正仁、石田千穂：病理病態学：神経系。（2回）

2006年7月 7日

2006年7月14日

（7）医学部保健学科講義

- 2006年前期 神経病態学講義

対象：理学療法学専攻・作業療法学専攻課程2年

学生総数 40名

講義回数 全13回、30時間

講師 駒井清暢

（8）薬学部演習講義

- 2006年度金沢大学薬学部医療薬学演習 / 金沢大学薬学部薬物治療検討会

対象：3,4年生、大学院生を含む

学生総数 約150名

「薬物療法を学ぶ アルツハイマー病」

講師：山田正仁、2006年10月25日

「薬物療法を学ぶ・パーキンソン病」

講師：岩佐和夫、2006年10月26日

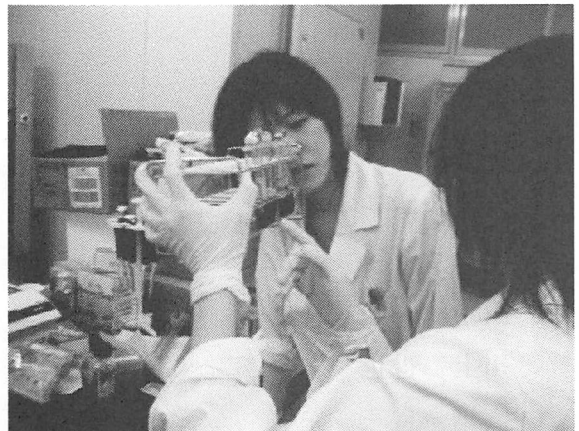
(9) 第2回金沢神経内科アカデミー

金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科）では、神経内科の魅力を医学部学生ならびに研修医に知ってもらうために、平成17年より神経内科臨床および基礎研究に実際にふれてもらう機会を作りました。

<第2回金沢神経内科アカデミースケジュール>

7月21日（金）

- 9:00 参加者医局集合
オリエンテーション
- 9:30 病棟実習 主治医グループに参加し、患者診察や処置の見学
カンファレンスに参加
- 11:00 神経内科診察法のポイントまたは外来実習（コース選択）
- 12:30 昼食
- 13:30 認知機能検査概要・見学
- 14:30 MRI 画像の読み方
- 16:00 「神経内科救急および急性期疾患の臨床」
講師 石川県立病院神経内科科長 沖野惣一先生
- 17:30 終了
- 18:30 親睦会



7月22日（土）

- 9:00 医局集合
各研究実習の概要説明・実習（コース選択）
- 12:00 昼食
- 13:00 研究実習続き
- 15:00 終了

第二日目 研究実習（選択コース）

A) 神経化学

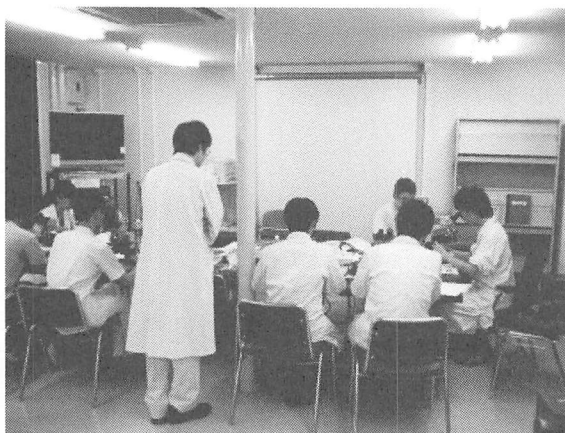
担当：森永、篠原

B) 神経病理

担当：石田、坂井

C) 神経免疫

担当：高橋、島



<参加者一覧>

鏡	京介	君
神野	範子	さん
安西	誠	君
黒川	哲之	先生
佐藤	倫祥	先生
真木	あゆみ	先生
小宮	陽仁	君
宇津木	絃子	さん
関	ルイ子	さん
田中	総一郎	君
川上	哲也	君
高橋	良一	先生
羽柴	智美	さん

